

宮 議 第 2 6 4 号  
令 和 3 年 6 月 2 5 日

ゆうかぎの会 一同  
会長 真栄里 隆代 様

宮古島市議会  
議長 山里 雅彦



陳情書の処理結果について（通知）

令和3年（2021年）5月31日付で提出された下記の陳情書は令和3年第4回宮古島市議会定例会（6月）6月22日の会議において下記のとおり処理されましたので通知します。

記

- 1 件 名  
陳情書第13号 がん治療に伴う脱毛で悩むがん患者支援に関する要請
- 2 結 果 採 択
- 3 理 由 上記の件については、陳情書の趣旨を了とし採択と決しました。

2021.6.17

月29日までに送信する。電話問い合わせは不可。詳細は市公式ホームページに公募要領、使用書、申請書などの様式を掲載している。

### 難病渡航費拡充など要請

市内患者  
支援4団体

### 離島不利性解消で

元患者などで組織される市内の難病患者支援4団体の会員らは24日、市役所に座喜味一幸市長を訪ね、がん・難病等渡航費助成事業のさらなる拡充などを要請した。市議会会派市民ネットワークの島尻誠、仲里タカ子、下地茜の3氏も同席。座喜味市長は「しっかりと検討し対応したい」と答えた。

参加したのはゆうかぎの会（真栄里隆代）、乳がん患者の会ましま宮古（深澤麗子会長）、日本オストミ―協会沖縄県宮古支部（下地一正支部長）の3団体。このほか沖縄県友声会宮古支部（下里弘志部長）も署名。宮古島市は13年以降がん・難病等渡航費助成事業を行っており、他の市町村に先駆け不妊治療にも支援枠を広げている。17年から県の半額支援も始まり、年度内1万円から1万3千円と増額された。20年度の延べ実績でがん患者186人、付き添い人42人に計388万円が支給された。

真栄里会長は「とても力強い支援に感謝しているが、



要請書を手にとり撮影に応じる（左から）下地支部長、座喜味市長、真栄里会長、深澤会長ら＝市役所応接室

平均年収200万円程度の宮古島ではさらなる支援が必要」と要請文を読み上げた。患者の事例も手渡し、宮古島に放射線治療の機械がないほか、難しい手術や血液、稀少がんなどの治療も不可能と説明、「どこに住んでいても命の重さは平等」となるには行政の後押しが必要と述べた。

深澤会長は「出産には期限があり不妊治療も回数が必要。手続きの簡略化もお願いしたい」と要請。

下地支部長は「大腸がんなどでオストミ―（人口肛門・膀胱）を付けている人のため、災害時に備え交換用装具を市で備蓄していただきたい」と要請した。